

イチジク「蓬萊柿」の平棚栽培での着色向上のための適正な新梢密度					
[要約] イチジク「蓬萊柿」の平棚栽培では、 m^2 当たり5本（新梢長30～50cm）の新梢を棚面に配置することで、着色の優れた果実を生産できる。					
担当部署	豊前分場・果樹研究室			連絡先	0930-23-0163
対象作目	果樹	専門項目	栽培	成果分類	技術改良

[背景・ねらい]

イチジク「蓬萊柿」の平棚栽培は、省力化が可能な栽培方法として近年急速に県内で導入が進んでいる。平棚栽培では、単位面積当たりに配置する新梢本数によって、果実の着色や収量が大きく影響される。特に、果実の着色は市場単価に影響し、着色割合が高く色濃く着色したものが秀品として高単価で販売されている。そこで、新梢密度が異なる樹について果実の着色と収量を調査して、イチジク「蓬萊柿」の平棚栽培での適正な新梢密度を明らかにする。（要望機関名：北九州普、築上普（H10））

[成果の内容・特徴]

1. 果実は、新梢密度が高いほど着色割合が低く、特に、新梢密度が m^2 当たり6本の場合には果皮色の色差計による測色値 L^* および b^* が高くて色が淡い（表1）。
2. 1果重は、9月上旬では新梢密度に影響されないが、10月中旬では新梢密度が低いほど大きい（表1）。
3. 糖度は、小果および果托ともに新梢密度に影響されない（表1）。
4. 新梢密度が高いほど単位面積当たり収量は多いが、平均果重は小さい（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 果樹栽培技術指針に登載し、技術資料として活用できる。

[具体的データ]

表1 「蓬萊柿」の平棚栽培における新梢密度が果実品質に及ぼす影響(平成12年)

調査 時期	新梢密度	1果重	糖度		着色	果皮色		
			小果	果托	割合	L*	a*	b*
	新梢本数/m ²	g	Brix	Brix	%			
9月 月上旬	4本	72.1a	17.6a	15.0a	64a	36.6b	14.5a	8.4c
	5本	68.7a	18.4a	17.3a	58ab	39.0ab	13.8a	11.7b
	6本	65.9a	16.9a	16.5a	44b	41.4a	13.7a	15.9a
10月 月中旬	4本	76.6a	16.0a	12.5a	49a	36.1a	9.2a	12.4b
	5本	67.3ab	15.7a	12.8a	36ab	40.1a	7.3a	16.4ab
	6本	65.0b	15.8a	12.6a	26b	45.1a	5.5a	20.8a

- 注) 1. 新梢密度の異なる樹を7月上旬の夏季せん定で設定。
 2. abcは、Tukeyの検定により異符号間に5%水準で有意差有り。
 3. 糖度は、果汁の屈折計示度。
 4. 着色割合は、果皮表面に占める着色した面積の割合。
 5. 果皮色は、果実赤道部の着色良好面を色差計 (ミノタ CR300) で測定。
 6. L*: 明(大)⇔暗(小)、a*: 赤(大)⇔緑(小)、b*: 黄(大)⇔青(小)。

表2 「蓬萊柿」の平棚栽培における新梢密度が平均果重と収量に及ぼす影響(平成12年)

新梢密度	m ² 当たり収量	平均果重
新梢本数/m ²	g	g
4本	1645	73.7
5本	1707	71.1
6本	2370	70.2

- 注) 1. 平均果重は全収穫果の平均値。
 2. 収穫物の調査は8～10月に実施。平成12年は6～9月の降水量が少なく、平年に比べ果実が小さく収量が少ない傾向にあった。

[その他]

研究課題名：果実の着色制御技術の確立
 予算区分：経常
 研究期間：平成12年度(平成10～12年)
 研究担当者：野方 仁、粟村光男、矢羽田二郎
 発表論文等：平成12年豊前分場果樹試験成績書